

九州大学ヘルスケアシステム LABO 糸島で開所式 ～糸島市・九州大学・住友理工の3者による連携協定事業がスタート～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 社長兼 COO：松井徹）は、糸島市（福岡県）および国立大学法人九州大学との3者による連携協定に基づき、九州大学ヘルスケアシステム LABO 糸島（愛称：ふれあいラボ）を4月24日（日）にオープンし、開所式を執り行いましたのでお知らせいたします。



開所式でテープカットに臨む（左から）
会長兼 CEO 西村、月形市長、久保総長



ベッドに横になり、「SR 介護マットレス」
（仮称）を試す月形市長

今回開設したふれあいラボは、昨年12月に3者間で締結した「健康」「医療」「介護」事業における連携協定に基づくもので、産官学による新たな取り組みです。地域福祉の向上を目的に、「糸島市健康福祉センターふれあい」内に設置。当社の開発者らが常駐し、九州大学との共同開発品をはじめとするさまざまな製品やシステムを評価・検証しながら、市民や専門家を交え、社会の中でどう役立てていくかなどを議論する場として活用します。

開所式には、糸島市の月形祐二市長、九州大学の久保千春総長、当社代表取締役 取締役会長兼 CEO 西村義明のほか、関係者らが出席。月形市長は「ふれあいラボが市民の皆様、そして子どもたちに愛され、親しまれる施設に育っていくことを期待している」、久保総長は「九州大学としても、このふれあいラボを活用して研究・開発を進め、社会への貢献を果たしていきたい」とそれぞれ述べました。また、会長兼 CEO 西村は「我々は地球、人、社会の『安全・安心・快適』に貢献する事業を目指している。ここ糸島はその出発点であり、新たな創業の地になると思っている。精一杯努力していきたい」とあいさつしました。

関係者らはテープカットの後、お披露目されたふれあいラボ内を視察。圧力を検知する「スマートラバー（SR）センサ」を応用した各種製品や歩行支援機器「SR 歩行アシストスーツ」（仮称）などを試しました。当社はこのふれあいラボでの活動を通じて、快適で暮らしやすい社会づくりを目指してまいります。



「SR ソフトビジョン（足圧版）」（仮称）を体験する久保総長

※「スマートラバー」および「SR Soft Vision」は、住友理工の登録商標です。

以上